

管理会社社長の
街づくり奮闘記
後編

△前回までのあらすじ▽
ひよんなことから、神奈川県三浦市で開催される花火大会の復活に役買ったことになった、賃貸管理を行うシー・エフ・ネット(神奈川県横浜市の倉橋隆行社長。後日、住人に感謝されたことをきっかけに「不動産で稼がせてもらった身だ、不動産で恩返ししよう」と街のにぎわいを取り戻すため尽力を始める。シャッター商店街に飲食店を誘致したがうまくいかず、自ら空き店舗や空き家の購入を始めた。

シャッター商店街をギャラリーや簡易宿所に再生

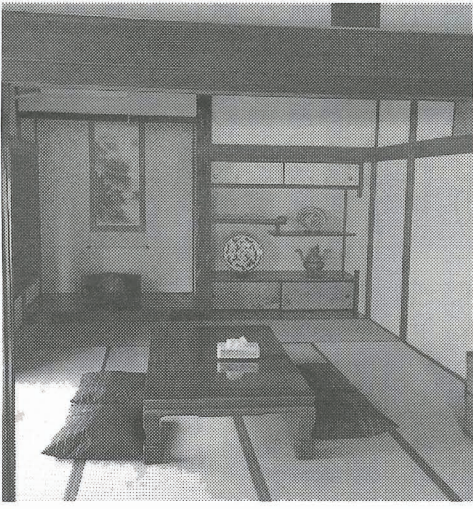
23棟を購入 次々に改修
8年前に購入した城ヶ島の民宿を皮切りに、3億円の資金を投じ23棟を購入。次々とパズルのピースを合わせるように、空き家、空き店舗になり



▲船具を扱っていた空き店舗を、昔の看板を残したまま、地元の軟水を使ったそば屋に改修した。昼時には席がいっぱいになることも

放棄されていた建物を再生し始めた。
バスターミナルの前の空き家を買取り、大英

博物館に作品が所蔵される陶芸家、澤田和陶人のギャラリーにした。地元海南神社の参道沿いの古い蔵は、日本食レストランにし、その隣の船用品を扱っていた商店は地元の水を売りにしたそば屋にコンバージョン。観光客が散策しながら店をのぞいて楽しめる通りに変え始めた。
街の変化を快く思わない住人もいたが、決して気にとめることはなかった。「倉橋っていう地上げ屋が何かやってると陰口をたたかれましたが、地上げって価値のある土地にやるものですよ」と倉橋社長は歯に衣着せぬ口調で話す。
少しずつ人が増えてきたところで、観光地図を



▶築140年以上の酒屋の2階は、10人ほどで宿泊のできる簡易宿所に改修。女子会や団体のマイジャン客でにぎわう

たところで、観光地図を作り商店街で配布した。築140年の酒屋の2階を簡易宿所に改装すると、女子会や徹夜マージャンの団体客で大当たり。土日の客に対しては、日帰りの温泉と捕った魚をさばいた食事をセットにして販売した。漁が終わった後、温泉に入り店に行く釣ったばかりの新鮮な魚料理を食べることができ、帰りの荷物も軽いと評判になった。

高齢者向け エリア構想

さらに、夏には初めてとなるサマーフェスティバルというイベントを開催し、『三浦プロレス』など興業も手がけ、80人が来場した。「今年は、黒字にできる」と倉橋社長はひたすら前を向く。
観光客だけではない。スポーツジムと最新の超音波治療のできる機器をそろえた接骨院を開設し、会員数は280人まで増えてきた。
歩いて行ける距離に、飲食店や娯楽施設まで揃う「三浦市コンパクトタウン」構想を描く。「三浦市は昔から有名な人の別荘がある油壺など、ヨットなどサマースポーツの楽しめる観光地だったが、今後は、高齢者が徒歩圏内でおいしい食事もでき、夜にはカラオケも楽しめる、そんな街にしたい」と(倉橋社長)

空き家が童謡作曲家の実家と判明

三浦市で空き家の再ある部屋が出てきた。生をするうちに、驚く 調べるうちに小村三発見もあった。
シー・エフ・ネット とが分かったと話す。の倉橋隆行社長は「整 」「よい子が住んでる 骨院とフィットネスジ ムを作る予定で、改修 『歌の町』で有名な。を進めていた建物の中 倉橋社長は文化的な遺 に、さらに小あがりの 産だと考えて、その居 住スペース は残し、年 に1度、小 村氏の法要 に親戚らが 集まるという。



▶小村三三氏の生家を発見し保存